



あなたに
伝えたい

人間はみんな不幸なんです。だから幸せを道端でもらったり拾ったりして、人にまた返しなが
ら生きる。

西村滋さんへの小説「お菓子放浪記」は読書感想文コンクールの課題図書にもなり、四十年近く子どもたちに読み継がれてきた。時は耐乏生活を強いられた戦時中、舞台は不良少年が集められ、体罰がまかり通る感化院。孤児シゲルは甘いお菓子に恋い焦がれる。それは一かけらの優しいもの、美しいもの、心を豊かにするものの象徴だった。

(三田村泰和)

「お菓子放浪記」は実体験が下敷きですね。孤児で不良と呼ばれたシゲルが刑事に買ってもらった菓子パンの甘さを胸に刺む場面があります。

十五歳のころです。昭和十五年の日中戦争中だから、甘い物なんてもうないし、菓子パンといったって、あんパンなんかなくて、消かした砂糖を上に塗ってあるだけ。それでもうまかったなあ。遠山さんという刑事さんが私を感化院に連れて行く途中、店に二つだけ残っていたパンに気付いて買ってくれた。人生にはお菓子のような甘さが必要です。愛情や友情、遠山さんの行きずりの親切みたいなものが、殴る刑事はいっぱいいたけど、パンを買ってくれたような人は遠山さんだけだった。小説はあの人のおかげで書けた。

甘さに飢えた記憶が、そんな時代を子どもに味わわせるなと訴える小説です。二十一歳から二十五歳ころまで、戦争孤児が暮らす東京の施設に雇ってもらった経験も基になっている。そのころを書いた作品は石原裕次郎主演で映画「やくざ先生」にもなった。戦争孤児は、きょうまで一緒にいた親が一晩のうちに空襲で虐殺された子どもです。十三万人といわれませんが、はつきりした数すら

作家

西村 滋

分らない。彼らは大人以上の経験をしてきた。悪さをして説教されても「戦争孤児が立派に生きていったら、戦争をやったやつらが責任を感じないだろう」とか、すごいことを言う子が何人もいた。物を書くバツクポーンになった。



「孤児は無責任な国家首脳者の代わりに、身をもって戦争の始末書を書かされている」と著書にありま

で、父も十一歳のころに結核で死にました。くれた理由の一つは母に愛されなかったという意識があった。結核になった母は庭の小屋に入って、僕が懐かしがって近づくと激しく物を投げつけた。結核感染を防ぐためですが、なぜそんなことをするのか幼くて分からない。十三歳のころ、うちの家政婦をしていたおぼさんが僕が入られていた施設を訪ねてきてくれて初めて理由を知った。母は「かわいがられた思い出がある、私が死んだ時に子どもは悲しむ」と僕を追い払ったそうです。でも庭に小屋を建てて、近くにいろいろとしてくれた。

母が死んで、一年たたないうちに継母が来た。気に入られようと、風呂上がり

下の陰で小声で言っているのが聞こえて泣いて出て行った。夕飯がほしいんじやない。楽しそうな家族と一緒にいるのがよかったのに。そういうことが心の底深い傷になっている。だから似た境遇の戦争孤児を構いたくなったんでしよう。

十代後半、身一つで名古屋から東京へ。東京大空襲は十九歳。死体の山の中を生き残った。借り物のオーバーは焼けてなくなり、やけどだらけ。それでも電車は動いていて、車内で傷を消毒して貴重な真っ白な包帯を巻いてくれた女性がいた。名前を聞くと「お互いさま」とだけ言って次の駅で降りて行った。初恋は、と尋ねられると、無理に探せば、その人です。戦争のあの時代をよかったとは思いません。でも戦時中は、会うにしろ別れるにしろ、心をこめましたよね。「さようなら」という一言に、どうか無事でと祈りをこめた。別れてすぐに爆撃で死ぬことが実際あったんです。幸せって何でしょうね。人間はみんな不幸なんです。だから幸せを道端でもらったり拾ったりして、人にまた返しながら生きる。

戦争孤児の「ことと伝え続けたくて

写真・佐藤均



にしむら・しげる 1925(大正14)年名古屋市中区生まれ。両親の病死後、継母が家を処分し戸籍を抜いて姿を消したため10代初めに身寄りを失くす。不良少年として12歳で感化院(現在の児童自立支援施設)に入る。以後、旅回りの一座に拾われたり、流しの歌手をするなどし、上京して戦争孤児がいる施設で働く。

一貫して戦争孤児をテーマに小説やエッセイを書き続ける。52年、27歳で第1作「青春廃業」を発表した。代表作の「お菓子放浪記」(76年)は木下恵介監督がテレビドラマ化した。続編(94年)、完結編(2003年)と書き継がれ、3部作になった。11年には「エクセル・お菓子放浪記」として映画化された。ほかにも「雨にも負けて風にも負け」で日本ノンフィクション賞、「母恋い放浪記」で路傍の石文賞。新作に「戦火をくぐった頃」がある。静岡市駿河区在住。

「お菓子放浪記」は出版まで十五年かかった。これが最後と持ち込んだ十社目の理論社で故・小宮山重平さんの手で世に出ると決ま